

令和5年度秋田地域保健医療福祉協議会 部会報告事項要旨

2. 献血推進部会

【前提】献血推進部会の所掌事項について、秋田市保健所が所管する地域に関する事項は除かれます。(男鹿市・潟上市・南秋田郡の献血事業の推進等を協議する場)

(1) 日時・場所

令和6年2月15日(木) 16時～17時15分
秋田地域振興局福祉環境部大会議室

(2) 出席者

委員11名(全17名)、赤十字血液センター1名、事務局6名
部会長 佐々木範明 委員 (一般社団法人男鹿潟上南秋医師会長)

(3) 内 容

1) 令和5年度の献血実施状況について

- 管内の2月15日現在の400mL献血の実績は、目標915人に対し936人の協力があり、達成率が102.3%であること、市町村別には男鹿市・五城目町・井川町が目標を達成している一方、潟上市、八郎潟町、大潟村が目標を達成していないこと、これは令和4年度の年間実績と同様の傾向になっていることを報告しました。
- 今年度、管内で献血の表彰を受けた者は、厚生労働大臣感謝状が1団体、献血100回知事表彰を受けた個人が6名、献血50回保健所長感謝状を受けた個人が8名であったことを報告しました。

2) 令和6年度の献血実施計画について

- 令和6年度の管内における400mL献血の目標人数は1,047人となり、令和5度から7人増加し、献血バス配車台数は今年度と同じ25台であること、1日当たりの目標人数は41.6人から41.9人に微増することを説明しました。
- 令和6年度の400mL献血の市町村別の目標は、男鹿市が293人(献血バス7台)、潟上市が335人(同8台)、五城目町が126人(同3台)、八郎潟町が84人(同2台)、井川町が84人(同2台)、大潟村が125人(同3台)としたことを説明しました。
- 令和6年度の200mL献血は、今年度と同様に保健所別、市町村別の目標数は設定せず、県内の献血バス全体で428人となったことを説明しました。

3) 赤十字血液センターからの情報提供

- 本県における10～30代の献血者数はこの10年間で30%減っており中高年世代の献血に依存しています。「献血セミナー」は将来的に輸血用血液が不足するのを防ぐため、献血の重要性を知り、大切さを伝えることで献血率の向上と血液安定供給を目指すものです。申込みは血液センターで受付しており、時間や場所も調整できますので、特に教育機関においては御活用について御検討をお願いします。
- 「ラブラッド会員」を積極的に募集しています。スマホアプリ、webで登録者増加中で、献血予約、血液検査の確認、会員特典等、必要な手続きが電子データでやりとり可能となり大変便利なツールとなっています。
- 輸血を受けた方やその家族からの投稿を「ありがとうの声」という形でホームページ上に公開し、献血の意義と社会への貢献を実感できるような広報展開を行っています。
- 新型コロナウイルス感染症に罹患した場合は、症状発現日から2週間(症状消失から3日)以上が経過すれば献血ができるようになります。

<出席委員からの主な意見>

- 当自治体における目標を達成できていない理由を分析したい。(行政関係者)
- 7月豪雨や長期間の猛暑など不利な条件の中、目標を達成できていることについて関係機関の皆様に感謝している。(医療関係者)
- 学生向けの献血セミナーについて養護教諭と連携して是非活用したい。(教育関係者)
- 令和6年3月17日(日)10時～16時に「メルシティ潟上」で実施される献血においては、献血の呼び込みに店内放送を活用したらどうか。(事業所関係者)